

平成 26 年度第 1 回流山市環境審議会会議録

平成 26 年 5 月 12 日 15 時 00 分開会 17 時 00 分閉会

新保國弘会長、赤坂郁美副会長、吉永明弘部会長、和田登志子副部会長、秋元五郎委員、
足原英二委員、金森有子委員、朽津和幸委員、宮原久子委員、中大路早智江委員、和田まつ彥委員
事務局

飯泉環境部長、南雲環境部次長兼クリーンセンター所長、染谷環境政策・放射能対策課長
小山内主事、片浦係長、遠藤副主査

リジョナル・プランニング・チーム（コンサルタント）1 名

1. 策定部会の審議経過について
2. 次回審議会日程及び委員任期・委嘱について

委員からの意見等

発言者	要旨
部会長	（部会における計画素案の検討経過について説明） ・ 前回 3 月 31 日の環境審議会後、4 月 14 日、28 日の 2 回の策定部会を開催した。 ・ 主に 2 回の部会では、資料 1 の 18 ページまでの内、庁内に諮るべき事項以外のものについて、前回審議会意見を踏まえて審議した。 ・ 19 ページ以降の実行計画 3 計画については、前回策定部会の後半に若干審議を行ったが本格審議はまだ行っていない。 ・ 審議会意見への対応状況について。
事務局	（補足説明） 基本目標 4 において「汚染のない」との表現をしているが、事務局で検討した結果、「汚染」という言葉の意味や印象が適切でないと考えている。その点と代案についてご意見をいただきたい。
審議会副会長	現状で汚染があるような誤解をされないため、また、方針のところでは総合的・具体的な内容が伝わることから、事務局案でよいと考える。
副部会長	施策の方向②の文面が長いので、分割や整理で読みやすくされたい。原子力基本法のところはいらないと思う。個別法は内容が調べられるよう各法の名称を記載されたい。
事務局	部会に諮って検討する。
委員	放射能や PM2.5 の汚染を意識せざる得ない状況から、「安心」という言葉がよいかもしれない。
副部会長	「快適な環境」はこの分野を総括しているように思う。
委員	自分は「汚染」を残すよう部会で発言したが、誤解を与える表現であるなら事務局案に賛成する。一方で、タケノコ出荷自粛の現状などから、14 頁に記載されたことを心の中にしっかりと受け止めるべきと考える。
委員	汚染がゼロになることはあり得ない。快適よりも安心や安全のほうが身近なように思う。
審議会会長	汚染というのは特定の物質についてどうかということであり、わかっていない物質も多

	くあり、被害の閾値が不明なこともある。相乗効果など様々なファクターが作用する。汚染がないというのは抽象的な表現である。快適、安心、安全という言葉と、健康都市宣言を反映する健康という言葉で表現することでいかがか。
委員	汚染という言葉は好ましくないが、将来にこの問題が忘れられないようにしたい。
副部会長	自分は、汚染がないは最低限で、次が安心・安全、もっと上のレベルが快適と感じているが、他の方々はどう捉えているかお聞きしたい。
審議会会長	国（厚生労働省）がそのあたりを議論した結果、今は安心・安全という言い方を用いている。いずれも分析しきれない、程度の問題であり、定義を議論するのは難しい。
委員	事務局の意向は理解できる。少し気になる点は、他の基本目標に比べて、分野がイメージしにくいことである。
審議会会長	その点は重要で、いわゆる公害であることが伝わるとよい。
委員	PM2.5の構成物質や害がわかるとよい。
委員	専門家が研究中の領域であり明らかになっていないことが多くある。
事務局	発生源も多様である。
審議会会長	粒子状物質の正式名称（particulate matter）を記載されたい。
部会長	20頁の図には、基本目標4の分野に対応する計画が書かれていない。
事務局	水質に関わる計画として生活排水対策推進計画があるため、記載を検討する。
事務局	17頁の「基本目標4についてのお願い」のところで、表題と内容があっていない。化学物質や油等の廃棄や排出を適正にすることの具体性を入れるなど、再度記載事項について検討したい。
審議会会長	基本目標4の事務局案については、大筋は合意することによろしいか。次に、1頁から18頁までを通してご意見を。
委員	環境目標の指標は従来から同じなのか、新たな変更はされているのか。
事務局	行政評価システムとリンクするものであり、状況によって変更する場合がある。
委員	最終処分量は市内でのことか。
事務局	最終処分場は市内になく、市外で最終処分がされている。
委員	不法投棄件数の目標値が上がっているのはどういうことか。
事務局	市民からの通報に対処して収集した件数であるため、少なければよいとはいえない。
委員	市役所からの温室効果ガス排出が増えている原因はなにか。
事務局	市役所のエネルギー消費量は減ったが、震災以降の電力の係数が上がったことが影響している。また、クリーンセンターに搬入される一般廃棄物の影響が大きい。
副部会長	人口増の影響があるかもしれないので、1人あたりの排出量のほうがわかりやすい。
事務局	この部分は市役所の事務事業編の排出量で、市域からの排出については市域編のなかで扱っている。
審議会会長	そのあたりの区別は、表をみてすぐわかるとよい。
委員	太陽光発電設置奨励金の件数が平成25年に急増したのはどういう状況か。
事務局	固定価格買取制度の買取価格引き下げが決まったため、直前の駆け込み需要が発生した。

委員	9頁の市の取り組みで新エネルギーとあるのは再生可能エネルギーとしたほうがよい。
委員	10頁について。環境目標で市域の二酸化炭素排出量は率ではないため、基準年の表記はいらない。太陽光のコラムで「年間日照時間が長いという点、導入が容易という点、樹木などに代表される緑も・・・通じます」の部分が気になっている。
委員	11頁について、「循環型社会を目指すため・・・」のところは、より積極的な書き方が望ましい。12頁のコラムで5Rから3Rに変える理由は、実質はこの通りだが、これまで市民に浸透した等のポジティブな印象となる書き方が望ましい。
委員	15頁について、環境目標で最近のデータがない項目はいらないと思う。他の分野も同じく。16頁について、基本目標2に関しての中で、小まめな消灯と節電は同じと思う。
事務局	市の取り組みと環境目標・指標は暫定のもので、今後庁内での調整により修正される。
委員	ルールとともに、モラルという言葉が大事と思う。マナーとも違う。
委員	方針のところで、まずリデュースが重要ということを強調し、発生抑制がどういうことかをやさしい言葉で示すとよい。再使用と再生利用の違いもわかるとよい。
部会長	小まめな消灯はどの程度の効果があるのか。場合によるのではないか。
委員	節電効果はある仮定にもとづいた数値なので、使い方や機器の種類にもよるし、最近の機器は待機電力対策も進んだので、劇的な効果はないと考えられる。
部会長	12頁について、5Rから3Rに変更する理由の積極的な面として、後半が重要である。3Rが重要で、その中でも2Rを優先するという点を強調するよう、文章を分けて書くとよい。
委員	食品の無駄をなくそうということを、発生抑制のどこかに表現できるとよい。
委員	3頁について、自然環境のところを「流山市の地形は、江戸川に沿って南北に長く、北総台地・・・」とすると、関東平野のどこにあるかがわかってよい。
審議会会長	18頁まで、本日のご意見をできるだけ反映する方向で、大筋を承認することでよろしいか。次に19頁以降について、ご意見を。
委員	年表の区分がすぐにわかるよう、見出しの「流山市の動き」「日本国内の動き」「世界の動き」の色を統一してはどうか。
事務局	19頁と20頁のそれぞれの図で、順が違っているため、整合が必要である。
部会長	20頁の図に生活排水対策推進計画を加えた場合は、3計画と同じ重み付けとなり、重点施策としても同計画を扱う必要が生じる。また、基本目標4に関して生活排水のみを取り上げてもよいのか。
事務局	生活排水対策推進計画については、各委員に読んで頂いた上で、検討を進めたい。
委員	これらの2つの図の関係がわからない。
審議会会長	重複している。これらについてはまだ議論がされていない。事務局で整理してほしい。
事務局	19頁の図は、以前に市長の意向を受けて広報用に作成されたものである。今回作成した20頁の図の意図も含めて、議論、検討が必要である
事務局	(次回審議会日程、及び、委員任期・委嘱について) <ul style="list-style-type: none"> ・ 次回審議会までに、市の施策について庁内調整を行う。 ・ その間に、部会を2回開催し、本日の意見等について検討する。

・次々回の審議会では最終的な承認をいただきたい。

<環境審議会の今後の日程>

6月30日（月） 15時～

7月28日（月） 15時～

<環境審議会策定部会の今後の日程>

5月26日（月） 13時30分～